

代器 世加 次大

建設試算大差に困惑

学術会議 「根拠精査できない」

宇宙誕生の謎に迫る次世代大型加速器「国際リニアコライダー（ILC）」の建設費をめぐって、研究者による見積もりコストについて、大きな開きがあることが10日

までに分かった。これまでに建設に約8300億円を必要としていたが、2兆円以上かかるとの試算も明らかになり、建設への科学的な意義を検討している日本学術会議は

「試算の根拠は我々では精査できない」（家泰弘 東京大学教授）と困惑している。海外では加速器建設で想定したコストが膨らんだため、計画を断念するケースもあり、大

きな問題となってきた。ILCは全長約30キロの地下トンネルに加速器を設置する国際プロジェクト。国内では岩手、宮

取りまとめる予定。だが、研究者からのヒアリングで、建設費に大きな乖離があることが分かった。

込みとされ、当初、約4000億円だったのが、米国の試算の場合、1・5兆円以上に跳ね上がるという。

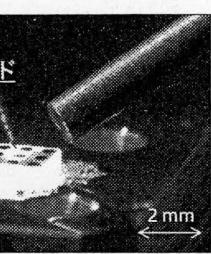
と疑問を投げかける。一方、同研究機構の鈴木厚人機構長はILCについて、当面の実験に必要な性能にした場合、想定よりも約24%減の6310億円になるとの試算も示している。

城両県の北上山地と福岡、佐賀両県の脊振山地が候補地となっている。日本学術会議は、ILC建設の科学的な意義や社会的な影響などについて9月ごろまでに結論を

これまで建設費は約8300億円としていたが、米国の試算では200億—250億ドル（2兆—2・5兆円）。日本国内に誘致されれば、日本はその半分を負担する見

高エネルギー加速器研究機構の生出勝宣加速器研究施設長（日本加速器学会長）は、「8300億円には測定器、計算機センター、人件費、運転経費などが含まれていない」

国内の科学者らで構成する「ILC立地評価会議」では地質や環境基盤の調査結果をもとに、8月中にも候補地を一本化する。この決定と前後して学術会議のILC計画に関する検討委員会がまとめる報告書が注目される。



2mm

ダイヤモンド半導体を用いたPINダイオードの電氣的・光学的評価の様子

ことが利用する上での大

産総研エネルギー技術研究部門電力エネルギー基盤グループ主任研究員

加藤 宙光

研に入所して以
ダイヤモンド半導
卸技術およびそ
デバイスの研究
晶成長・ドーピ
た研究開発は、
型トランジスタ
に進展。圧倒的
るダイヤモンド
省エネルギー
子デバイスの創
る。

とめる報告書が注目される。